

『読我書楼長曆』翻刻(一)

荒木 龍太郎

関 幹雄

要旨

本稿は、幕末維新期の陽明学者の日記である『讀我書樓長曆』(文政十二年九月十五日〜天保元年閏三月二十九日)の翻刻である。古義学を脱して、三十四才、新たな学問の進展を目指し、佐藤一斎に従学するため江戸に向かわんとする時期の事柄が記述されている部分である。

キーワード

吉村秋陽、幕末維新期、陽明学者、広島藩、佐藤一斎

はじめに

吉村秋陽、名は晋、字は麗明、通称は重介、隆介、秋陽は号。寛政九年(一七九七)〜慶応二年(一八六六)、享年七十。広島藩支藩三原藩の陽明学者であり、佐藤一斎の高足である。秋陽は青年時代までは山口西園、伊藤東里に従学して古義学を学んだが、次第に古義学に疑念を懐き、三十四歳の佐藤一斎への従学を契機として

陽明学に転じた。一斎は秋陽をしばしば愛日楼に招き、他人には見せなかった「大学古本旁釋」や「大学摘説」の稿本を示すほどであった。一斎に就き、四十六歳頃までに陽明学者としての学問を確立した。その後、三度にわたる長府督学の任や、四十六歳・五十五歳の東行における佐藤一斎の代講、藤樹書院での講釈、朝陽館(広島城内)、明善堂(三原城内)での教授活動、さらに石見、京都、岩国、多度津での講釈などを行い、晩年に至るまで、広い範囲に影響を及ぼしたのである。その間、佐藤一斎との師弟関係は緊密であり、また大橋訥庵(一八一六〜一八六二)、春日潜庵(一八一〜一八七八)、池田草庵(一八一三〜一八七八)、林良斎(一八〇七〜一八四九)、楠本端山(一八二八〜一八八三)、楠本碩水(一八三二〜一九一六)等とも終生真摯な交渉を継続し、幕末期に名を馳せる陽明学者として活躍した。なかでも大橋訥庵との間で交わされた、王陽明思想が劉念台思想へ与えた影響に関する一連の激しい論争(格致贖議―論格致贖議―弁復書)は極めて高い水準を示している。その門から勤王の士の東沢瀉が出たが、秋陽の学問の傾向は、直接的な政治行動よりは、着実な思索と体認とを重視する。そのため秋陽は佐藤一斎から昌平黌の運営を相談され、また幕末の緊迫した藩の行政相談にもあがり藩の機密にも深く関わった。その秋陽の代表的な著作は以下の通りである。

『王学提綱』(二巻二冊・文久元年自序・文久二年刊)

『旧本大学贖議』(二巻二冊・安政二年五月自序・安政五年七月跋)

『汪武曹四書大全』(二十四卷四十八冊・安政元年刊)

『読我書楼遺稿』(明治十五年刊)

*

*

*

『讀我書樓長曆』は文政十二(一八二九)九月十五日(慶応二年(一八六六)までの事柄を漢文体で記述した日記である。そのうち、天保二年(一八三一)七月二十四日(天保四年(一八三三)六月十八日、及び天保七年(一八三六)七月十六日(十二月十三日(招聘記)の記録は現存しない。

今回は「文政十二年九月十五日(天保元年閏三月二十九日)の翻刻を行った。なお、本稿は、旧稿「吉村秋陽『讀我書樓長曆』について(一)都城工業高等専門学校研究報告18号、一九八四)を大幅に修訂したものである。

凡例

○底本は、秋陽自筆『讀我書樓長曆』(九州大学付属図書館所蔵「吉村文庫」本)である。

○活字化するにあたり、文字は可能な限り底本の通りにした。従って、旧字、新字、簡略字が混在した状態のままにしている。

○底本において割注・小字注で表記されている箇所については、本稿では「」を用いて表記した。

○読解の便をはかり、翻刻者の責任のもと句点・返り点を付した。また、()内の記述も翻刻者に係る。

○注については、語彙についての注解は避け、固有名詞・地名についての言及に重きを置いた。

○虫損、その他により判読しがたい部分は□を用いた。

*荒木龍太郎(活水女子大学名誉教授) 関幹雄(都城高専)

*

*

*

讀我書樓長曆 卷一

文政己丑(十二年)秋九月望曉發。諸子送至海田驛。留飲。辰時始分。午買肩輿。至四日市驛。日已薄。虞淵。下輿憩旅次。喫飯。步擔入松子嶺。則晚暮矣。嶺半南出向三永村。路甚狹窄。松柏陰翳。稍入溪間。路益益暗。時聞豺狐之聲而已。急步而漸入村。到里正山内氏宿焉。方初更。少覺足痛。山氏之子弥一曾從余学。是以敬待最至。大慰疲。微醉而寢。此日晴暖如三四月候。自府至三永九里半而遙。

十六日 辰時發三永。弥一及一小僕送至新莊村。別。日晡至三原城。投都筑氏。足痛未瘥。忍痛訪湯淺氏。與子亨話。叙別而歸。與主人話。少刻而寢。自三永到三原七里半。

十七日 朝訪本莊氏林氏等所親。又到公館候安否。夕再過飲本莊氏。

十八日 午前出三原。申時到尾路。寓大塚士毅家。士毅南勢人。業儒醫。余之故人也。今在尾路。授徒。已上三日氣候同十五日。自三原到尾路三里而遙。

十九日 午後彭城良達使人來告。欲同遊向嶋。嶋在尾路之南。相距七八丁。余往彭城氏同買渡。至嶋中某生家。生廣嶋人。為其主藤井氏。管鹺田者。余亦有二面之識。主人大喜。供具頗豐。及夜而散。主人及三客乘醉更送余到尾路。同觀劇場。四更歸寓。此日小雨。自曉及辰時而霽。彭生三盤嶋人。業醫。曾学于余。今在尾路。

二十日 在寓。松玄同來話。晚間小飲。「此日終日陰晴不一。」

二十一日 晴。在寓。士毅請為塾生講史記。以今日為始。晚小飲。「此日晴。作書寄本府。」

二十二日 在寓。午前詩僧風林至話。出其詩稿乞批評。風床曾往持備中倉敷觀龍寺。有詩名。著風床小詩風床詩稿及續聯珠詩格等。六年前余始遇于本府。「晚小飲。夜同主人訪良達雨窓及龜山生。生不在家。」

二十三日 在寓。「陰。夜小雨。良達至圍棋。雨窓師亦至。雨窓福山人。奉親鸞教者。能書畫及詩。余亦曾相知。今在此地。」

二十四日 在寓。午後風床來話。返所評稿與詩一篇「七律」。作書寄都寧父。良達輩至。小飲圍棋。「終日陰。」

二十五日 在寓。朝良達至。約午後同會雨窓師房賦詩。午前風床至。復携旧稿乞評。對話數刻而去。午飯畢與主人打棋。二三局便同訪雨窓師俱賦。晚泊。分韻限體詩成。大飲。供具頗盛。余醉殊甚。及三更而散。同會者風床上人寓主人龜山夢研良達醫生某々主人及余八人。「此日晴暖。午後微陰。」

二十六日 在寓。晚間小飲。「氣候同昨。」

二十七日 在寓。午後星野良澤使一奴來告曰小生今日來此地。

聞先生亦東遊。可獲相見否。余即訪其逆旅。各叙久濶之意。良澤云小生今住豫州今張府。偶為業往福山府。竣事而還。今張遠鄉之學士。先生暫遊今張何如。傍有一人。亦今張商近藤某者亦懇勸行。余畧諾之。然後同出逆旅。飲某妓樓。惡妓數輩侍宴。絃歌嘈雜。將及三更再送良澤至逆旅而歸。寓。良澤本府官醫良悅之子。余之同學。客冬有故去國。「此日晴。」

二十八日 在寓。與主人謀今張行。主人為余筮之得比卦。竟決策欲以十月初渡海。晚買魚一尾。小飲。「此日陰。夜小雨。」

二十九日 曉地震。今日此地為秋社。朝同主人赴林屋養助之招。食餅飲酒。話少刻而還。晚風床良達輩來話。余終日患滯飲。意不樂。「此日輕陰。午前始晴。」

晦 在寓。作書託都氏寄家人。午飲畢出街上買烟具。晚與主人散步淨土寺。獨主人勸別杯。「此日晴。」

十月朔 午前買小舟。發尾路到弓削嶋。宿土豪中村氏。氏之子在雲渦之塾。與都講一宮叔和皆從焉。舟中風浪甚惡。同舟俱困頓臥篷底。或嘔吐。弓削嶋傳言僧道鏡所出。今有其祠。屬豫州今張侯之封。內周廻三里分上下村。土風頗淳古可喜也。夜與叔和賦詩書贈主人。夜小飲。自尾路到弓削六里而遙。「此日晴。」

二日 朝遊海濱。濱方七八丁。沙礫如滌。老松數千株無雜樹。

一神宇瀕海所祠之神某々及孝謙帝云。席林間遠眺南東渺茫千里。山影如拳如頭者時出沒乎雲煙之間。問土人云屬讚之諸嶋也。好景不可狀。偶得一聯云云。而歸寓小飲則舟人報潮。此日寓主人亦偶有事於府下。因同舟。午前發弓削。叔和從焉。女子三五人亦同舟。皆寓主人之家。舟中言笑喧聒鄙俚可厭無敢羞態。叔和屢目余忍笑。終日無風無浪海面如席。蓋自尾路至豫殆二十里而諸島大小數十。主人為余指點說。其名多未曾聞者。日始晡到今治府。與憩逆旅。問良澤宅。使叔和報。良澤前夜携家往三盤嶋。門生之居守者來迎。館其宅之側。奉侍甚謹。小飲入寢。〔此日輕陰。〕

三日 朝使叔和詣中村生逆旅謝前日之事。午後生亦來訪。晚小飲。散步買一魚遣中村生。〔晴。〕

四日 晨中村生來謝且告歸。午前良澤歸喜余先在。言日前別先生歸復講諸友。諸友促余迎先生。余奔忙未果。不暇既到日。午飯畢携余過土豪近藤生。生不在家。因訪中村生寓。生云今日有事未果歸。因煮大酒鱸魚相款。良澤與生棋。歸路過某々生家謀開講之事。〔此日晴。〕

五日 曉風起陰雲黯黯。終日不霽。午飯後散步街中訪中村生。晚飯畢少覺腹痛。令泰次按腹而益甚矣。主人為調苟甘加蜀葵湯。余亦服所貯消毒丸數十粒。偕不應。終夕困苦輾轉不能睡。

六日 主人晨至。切脈按腹云回腸愀種殆見腸癰證。因更調一

劑係蘭方。服之則少有驗。一日俱服三劑。腹塊漸消。劇痛漸減。午前叔和還尾路。〔終日晴。〕

七日 疾半復常。浴湯結髮。疾起而後主人夫妻保養殊懇々。是以少懷土之情。作書寄家人。言諱於此地之事。近藤省吾來面與主人謀余僦居。近藤氏府下豪族。雖事商而佩雙刀列士籍云。〔晴。微寒。〕

八日 病全復。主人更為調下劑。終日服三劑。與主人同訪光藤禎作。禎作業醫。少年時學皆川湛園者。談少刻而還。過中濱街視余僦居。因命灑掃。議以明日移居。午前歸寓。片上良岱在寓主人家。與余相面叙久濶之情。良岱業醫。曾遊廣嶋。在星野翁之塾。亦從余讀書。豫州某村人。距今治二里許。晚小飲。良岱歸。〔晴。夜微雨。〕

九日 夜光藤禎作父子來訪。〔陰。晚雨。〕

十日 晚小飲畢移於中濱街之客亭。主人及二門生皆送余。至亭喫茶。少話而去。客亭頗曠濶清淨可居也。庭祠皇太神宮社中。買一奴供爨炊之事。〔此日風雨。〕

十一日 晨炊畢。令奴適市買家私數物以為涉冬之計。夜光藤父子來訪。小飲。〔晴。〕

十二日 朝訪星野氏。午後近藤省吾來。久保某々藤井某等來面入門。紹介俱為良澤。夜星野氏之內來賀移居。光藤父子携酒饌到。傾談數刻而去。〔此日晴而風。晚益甚。〕

十三日 結髮。午後開講孟子及唐詩。諸子來會。〔晴。〕

十四日 午後講。同昨夜。小飲。往星野。〔晴。〕

十五日 講。草文一篇。晚小飲。往星野喫晚飯。〔晴。〕

十六日 結髮。講。晚小飲。往星氏。主人不在家。歸路訪光藤生復飲。快談良久而歸。〔晴〕

十七日 講。晚小飲。適星氏浴湯。〔晴。〕

十八日 淨寫舊稿數篇。投示光藤翁。講後近藤省吾招飲。及夜二更而歸。寓同會者星柔克光瑣善。〔雨。〕

十九日 結髮。講。訪近藤清輔。留飲。光藤禎作來會。歸路過光藤氏。主人有密話。適星氏。〔晴且風。及夜不已。又陰。〕

二十日 講。光藤近藤等來話。晚小飲。適星氏浴湯。訪光藤氏。講伯夷傳。留飲為前宵餘話。〔陰晴不定。且風稍覺寒。〕

二十一日 講。聞星氏有病。往問之。夜川上某至請。藩諸士欲招余。開講筵之事。光藤生來。為講伯夷傳。因命小酌。川上某亦藩士。〔淡陰。〕

二十二日 結髮。講。訪病於星氏。得家書。夜同光藤父子訪大應寺老和尚。〔晴陰不定。夜微霰。〕

二十三日 適星氏。講。詣近藤清介及星氏。聞弓削嶋中村生到。因訪其逆旅。光藤翁來訪。小酌。〔陰晴不定。〕

二十四日 訪星氏之病。病漸愈。孟子會讀以今日為始。因約余講孟子三言則復會讀。爾後從此例。川上生及藩諸士等來面請開講。以明夜為期。夜過光藤星野近藤氏俱謀移居之事。〔候同昨。〕

二十五日 結髮。講。夜川上生來迎。同光藤父子入城。赴山下某家。講論語學而首章。會者十人。講畢供酒饌。驩話及四更而還。〔陰寒。〕

二十六日 作書寄雲渦。訪中村生託之。因訪星氏近誠輔亦在。云下移居議已成。居在室街。當經已二五日而遷也。講。復過星氏。主人為余之業將風靡一方密謀始末之事。喫晚飯浴湯。歸路過光藤氏謝前宵之事。主人不在家。瑣善迎。余云藩之學士玉井某欲今宵介余而見先生。既來在座。而先生幸賜賁臨請相面。可乎。余從之。某懇伸傾瀉之情。余聞三言已知亦一才人頗解懷抱。瑣善命小酌。主人亦歸。此彼猷酬盡歡而散。某及主人父子同送到余寓。〔今夕督學豐田某病沒。藩士多出其門。故皆服心喪。同告暫休講之事。訪中村生託之。朝晴。自午前復陰。〕

二十七日 適星氏。藩士堀江川上二生來謝開講之事。講。今夕督學豐田某病沒。藩士多出其門。故皆服心喪。因告暫休講之事。〔晴陰不定。〕

二十八日 適_二星氏_一。以_二微恙乞_一藥。會讀。晚又過_二星氏浴湯_一。歸路訪_二近誠輔_一不在_二家_一。〔晴暖。〕

二十九日 結髮。藩太夫鈴木某之子兄弟來面。近誠輔來話。講。將_レ謝_二前日以來訪_二諸士之家_一。謝_レ之謀_二之光藤生_一。生父子導_レ余入城到_二某宅_一皆不在_二。投_レ刺而去。到_二鈴木氏_一。氏兄弟自_レ廳事出迎。太夫亦出面話數刻供_二酒饌_一。山下某亦侍飲。夜_二三更辭還_一。主人父子及山下生俱送到_二廳事之下_一。固辭不_レ聽終始致_レ禮甚盡。歸路同_二光氏_一過_二近省吾_一謀_二移居之事_一且謝_二其勞_一。又過_二星氏及近誠輔_一。雲渦之書達。〔晴暖。〕

十一月朔 拉_二光藤生_一入城到_二諸士之家_一。歸路訪_二星氏_一。講。鈴木山下_二二士來_一。藤井生招飲。藩醫中村良楨亦到請_二入門_一。〔晴。晚風寒。〕

二日 訪_二近誠輔_一。喫_二午飯_一。適_二星氏_一。講。夜楨作誠輔到會_レ讀韓文_一。小飲。〔陰晴不定。〕

三日 適_二星氏_一。結髮。會讀。鈴木生及光藤翁來話。夜小飲。又適_二星氏_一。〔陰晴不_レ。〕

四日 講。晚小酌。適_二星氏及光藤氏_一。〔晴。〕

五日 講。拉_二村生二人_一散_二策西郊_一。歸路過_二光藤氏_一喫_レ飯飲_レ酒。〔晴。〕

六日 結髮。作_レ書數通寄_二鄉_一。茶屋生携_レ余及久保宜哉光藤岡本_二二生_一拜_二大濱八幡神祠_一。大濱去_二府北一里許海浜_一。闔_二村皆漁戶_一。席_二山陂_一大飲。夜初更踏_レ月而歸更適_二星氏_一。休講。〔晴和似_二二月之候_一。〕

七日 適_二近誠輔_一謀_二移居之事_一。講。晚小飲。夜韓文會讀。光藤氏餉_二餡餅及熟菜鮭_一。〔雨。晴霽而風。〕

八日 朝遷_二居近誠輔之宅_一。會讀。弓削中村武兵衛到達_二雲渦所_一傳致_二珠文及伯氏之書_一。鈴木生惠_二魚一尾_一。夜與_二主人_一賦_レ詩。小飲。〔近午風歇而晴。〕

九日 講。夜韓文會讀。〔陰晴不定。〕

十日 適_二星氏_一。光藤近藤星氏三子為_レ余相_二新街之館_一。講。主人歸。請_下以_二明夕移_レ居_一。夜小飲。〔晴。〕

十一日 講。新街之居落成。與_二近誠輔_一往遷。諸子來賀。酌_レ酒為_レ煖房_一。〔晴。〕

十二日 朝適_二星野光藤近誠輔及近藤氏_一謝_二傲居之事_一。會讀。夜韓文會讀。小飲。〔陰晴不定。夜電雷雨。〕

十三日 講。課_二諸生_一而執_レ事。適_二星氏_一浴湯。韓文會讀。〔晴暖。夜雨。〕

十四日 訪_二星氏_一。講。小飲。夜為_二諸藩士_一開_レ講孫子_一。〔晴暖。〕

十五日 朝適_二星氏_一。歸路過_二拜_一皇太神祠_一。灼_二艾肩背_一。講。小酌。夜過_二星氏_一浴湯。「同_二昨日_一。」

十六日 休学。午後小酌。拉_二岡光宮佐諸生_一散_二策西郊_一觀_二日吉村之城趾_一。趾昔日河野氏之堡也。孝靈帝之皇子某自_二始賜_一豫州_一称_二越智御子_一。世守_二其國_一為_二名族_一。後改_二河野氏_一云。久保其流。招飲。「陰晴不定。」

十七日 訪_二星氏_一獲_二家信_一。會讀。晚光翁携_二所釀濁酒_一對酌。復往_二星氏_一。韓文會讀。「陰晴不定。」

十八日 講。小飲。訪_二星氏_一浴湯。夜韓文會讀。「晴。」

十九日 訪_二星氏_一同談_二心事_一。講。夜詩會。「晴。午後微雨。晚歇。」

二十日 講。晚過_二近藤誠介_一棋。主人供_二酒飯_一。三更_二歸_一寓。「晴而風。」

二十一日 會讀。夜韓文會讀。後小飲。「晴。」

二十二日 訪_二星氏_一。講。浴湯。夜韓文會讀。「晴。晚來雨。」

二十三日 發_二家書_一。講。訪_二星氏_一。韓文會讀。「陰。午後霽。」

二十四日 訪_二星氏_一。講。夜講_二孫子_一。又過_二星氏_一。「陰晴不定。」

二十五日 訪_二星氏_一喫_二午飯_一。會讀。夜過_二誠介_一棋。「晴。」

二十六日 休学。拉_二光宮佐三生_一遊_二國分寺_一謁_二脇屋義助之墓_一。寺在_二城南國分村_一。去_二今治_一二里許山中。墓在_二其東與_一寺相隔一丁餘小阜之上。而其城北之一山則國分城之墟也。昨河野氏之所構而後(墨筆見消)福侯正則居_二之_一。日暮歸。過_二星氏_一浴湯。赴_二鈴木氏會話之約_一。誠介亦來會。余為_二主人_一講_二伯夷傳_一。「晴。」

二十七日 講。冬至。夜諸子來會。酌_二酒賦_一詩。「雨。」

二十八日 訪_二星氏_一喫_二午飯_一。講。夜韓文。「晴。」

二十九日 過_二星氏_一。講。夜二更後小酌。復過_二星氏_一談_二心事_一。「晴。」

晦 會讀。夜訪_二光藤氏_一小酌。「陰。」

十二月朔 朝拜_二太神宮_一。過_二近誠輔星氏及移居之時有_一佐_二其事_一者某々等家_一謝_二之_一。近省吾有_二喪弔_一之。文會。「晴。」

二日 訪_二星氏_一。講。夜過_二誠介_一棋飲酒。「晴。」

三日 講。夜韓文會讀。同酌。「陰。午後風雨甚。」

四日 過_二星氏_一。會讀。夜講_二孫子_一。「晴。」

五日 講。同_二光藤生_一入城。訪_二藩士某之家_一。夜浴湯。適_二星氏_一小酌。「晴。午後陰。夜微雨。」

六日 休学。同光藤玉井二子及諸生遊西郊。過飲南生處。〔陰寒。〕

十六日 放学。晚浴湯。訪星氏。夜復往飲酒。〔陰。午後大雨霰。〕

七日 講。夜韓文會讀。畢皆散獨與鈴生薄飲。生為買下酒之具。〔雨。〕

十七日 講。夜過星氏。〔陰晴不定。〕

八日 講。夜以微恙罷韓文會。因過星氏食鹿肉。頗覺支體之快。〔陰。晚稍晴。〕

十八日 朝訪星氏。講。夜又過星生。〔陰晴不定。夜風雨。〕
十九日 獲家信。過話星氏。講。歲晚勿劇以今日撤帳。夜訪星。〔陰。〕

九日 會讀。夜詩會。〔陰。〕

二十日 訪星氏。夜過誠介棋小飲。〔陰晴不定且風。〕

十日 講。過飲鈴木氏。歸路訪星氏。〔陰晴不定。〕

二十一日 晚宮本生到對酌。訪光藤氏。適星氏。〔晴。〕

十一日 講。夜韓文。〔同昨。〕

十二日 適星氏。講。浴湯。晚小酌。又過訪星氏。〔晴。〕

二十二日 午前小酌。晚浴湯。鈴木生來貽章魚。言所自漁。即作羹呼宮生與食之。〔陰晴不定。〕

十三日 會讀。夜過飲光藤氏。歸路訪星氏。〔晴。〕

二十三日 午後過鈴木氏。歸復到星氏議事。〔陰晴不定。〕

十四日 過誠介談星氏之事。又過星氏。講。夜講孫子。更過星氏。〔晴。〕

二十四日 往星氏。午前與宮生小酌。夜過誠介棋。又過星氏。〔晴。〕

十五日 拜皇太神宮。過久保宜哉賀孝子問近省吾起居。訪星氏。午前獨酌。講。夜光藤翁近誠輔柔克來打算余之費用。余過誠輔宅與佃生棋。主人亦歸。飲酒。歸路再過星氏密談事。〔雨。〕

二十五日 家君忌日在明日。以故心齋終日。〔陰。〕
二十六日 朝赴星氏之招議事。〔陰。〕

二十七日 晚浴湯。適星氏。「晴。」

二十八日 午後岡本生到對酌。夜訪誠介棋。歸路過星氏。「晴。」

二十九日 岡本生來寓。頗多俗事。夜話星氏。過誠介與佃生棋。「晴。」

三十日 午後過所親賀歲暮。浴湯。夜過誠介與佃生棋飲酒。又過星氏。「陰。午後雨。」

文政十四（天保元年）庚寅正月

朔 晨起盥櫛着袴拜天地四方。又遙拜祖先之靈。午前小酌。掛筆三紙。晚過星氏賀履端。小飲。「晴。」

二日 午前小飲。終日多賀客。晚適星氏議身計。「小雨。午
前稍歇。終日頑陰。」

三日 午後過近藤及光藤氏。賀履新誠介宅。與佃生棋供祝酒。「陰。午後小雨。夜風。」

四日 午後詣諸生之家賀履端。歸路過誠介棋。夜與岡生對酌。「晴。終日風。夜益甚。微雪。」

五日 午後過話星氏。「陰晴不定。」

六日 午後過藩諸子賀新禧。町野氏供酒飯。光藤子亦到。「晴。」

七日 發會。晚淺酌。訪星氏。「陰。夜雨。」

八日 講。晚星氏招飲。「晴。」

九日 講。晚浴湯。夜詩會。會後與諸子小酌。「陰霽不定。夜
小雨。」

十日 午飯後散步海濱。講。夕又散步西村。夜誠輔招飲棋。「晴。」

十一日 午前小飲。散步海濱。會讀。夜訪星氏。「晴。」

十二日 立春。講。拉光生賀歲首於藩諸子家。夜小酌。訪星氏又酌。「晴。午後陰。」

十三日 講。午後招一相者。相余前途吉。夜韓文會。「陰晴不
定。」

十四日 講。晚散步海濱。夜過星氏談心事。又過誠介棋。主人供雁飲酒。「晴。」

十五日 朝謁皇太神宮祠。過誠介棋。喫午飯。歸。以上元
休學。夜與岡生對酌。「陰晴不定。」

十六日 休學。晚散步街中。歸路過星氏。「陰晴不定。晚風微
霽。」

十七日 會讀。晚浴湯。夜過「話星氏」。「陰晴不定。」

十八日 講。夜韓文。星氏迎「余婦小酌」。議「身計」。「晴。」

十九日 午後光氏父子拉「余及佃宮二生」泛「小舟於海」遊「大濱之海上」。更乘「一大船」。是亦光氏之物。飲酒頗多。興久捨「舟到」大濱「步歸」。更過「光氏」小酌。「二更歸」家。是以講及詩會俱休。雲過書到言「雨窓之事」。與「岡生酌」別杯。「晴。」

念日 晨岡生辭「余塾」赴「松山府」。朝適「鈴木氏」賀「復職」。歸路過「星氏」議「心事」。講。晚浴湯。復過「星氏」議。夜復到復議。「陰」。晚雨暖。」

念一日 講。午後散「步海濱」。過「話星氏」。夜復過。「晴暖。」

二十二日 會讀。夜過「誠介」棋小飲。「晴。」

二十三日 講。午後過「海濱」逍遙。過「星氏」議「上都」。夜韓文。復過「星家」飲食。「晴。」

二十四日 灸「背」。以「故休講」。晚過「星氏」。夜訪「誠介」棋。歸與「飯生」對酌。光翁亦到。「陰。」

二十五日 講。午後訪「星氏」喫「飲飯」。「陰。夜雨。」

二十六日 休學。朝訪「星氏」議「歸計」。午後為「諸生」書數十紙。夜久保宜哉携「饌觴」余。星氏夫妻及飯塚宮本鎌田生來待飲。誠介

亦偶至。「二更始散」。「晴。」

二十七日 講。終日揮筆。夜過「星氏」小飲。「晴」

二十八日 揮筆畢。會讀。弔「鈴木大夫喪」留話。初更歸到「星氏」。鈴翁有「謝訪」。此日報「歸期於鈴氏」。鈴氏父子懇留之。「陰。」

二十九日 適「禎作」。誠介先歸。訪「星不在」家。講。晚浴湯。過「星」。夜連過「誠介」與「佃田生」棋。歸與「飯藤二生」小酌。「晴。」

二月朔 朝拜「皇太神宮祠」。歸路過「星氏」。講。余上都在「近日」。故以「今日」撤「帳」。夜以「金匱釋義雌黃」⁽²⁾「竣」事。適「誠介」附之小飲。又過「星氏」聞「身計之吉」。「晴。」

二日 朝揮筆。午後光藤翁父子誘「余乘」小舟「遊」波止濱「齧田」。飲食頗豐。夜初更後歸。又過「星氏」。「晴。」

三日 揮筆。午後裁「家書」。訪「鈴木氏」。歸路過「星氏」。「陰。晚雨。」

四日 自「午前」與「禎作」父子「飲」。晚浴。過「星氏」。「陰。午後微晴。」

五日 朝發「家書」。午訪「諸子」告「別」。夜赴「山下氏」為「藩士」講「左傳」。歸與「諸子」飲。「晴。」

六日 午後過「藩諸子」告「別」。夜為「藩士所」邀復赴「山下氏」聽「村上生之講」。留飲。「陰晴不定。」

七日 午後過_二星氏_一。又過_二鈴木氏_一叙別。二更_一。復過_二星氏_一將議_二黃事_一。主人不在_二家_一。「晴。」

八日 上都在_二十日_一。諸子多來侍者。晚同飲。夜過_二星氏_一。「陰晴不定。」

九日 午適_二星氏_一告別。晚光藤諸子設酒來觴_二余_一。諸藩士亦來。「晴。」

十日 舟人違期。午前與_二諸子_一飲。午後同遊_二日吉城跡_一。歸路過_二飲南生_一。「陰。」

十一日 昨來微風邪未全痊。終日平臥。夜為_二藤生所_一請力疾赴飲。早歸。「陰晴。」

十二日 晚浴湯。夜大飲。「殊晴温。」

十三日 夕發_二今治_一到_二波止濱_一待_二舟_一。光南卜三生送同到宿_二州舍_一大飲。「陰。晚雨。」

十四日 在_二客店_一。午前卜氏先辭歸。午後小飲。晚又到_二大濱上_一乘與_二光南_一二生別。舟發_二夜到_一登茂浦而泊_二浦_一。去_二今治_一三里。「雨。午後晴。」

十五日 發_二浦_一。風快甚。午前到_二輛津_一。以_二風甚_一而泊。浴湯結髮。午後率_二諸舟子_一上_二酒樓_一大飲。歌妓某到。夜飲_二舟中_一。妓亦到。

此日上_二待潮樓_一。自_二登茂浦_一至_二輛津_一十里。此夜月食皆既。自_二初更_一到_二三更_一。「晴。」

十六日 朝發_二輛津_一到_二牛窓_一。二十里。浴湯。小飲。「晴。」

十七日 朝發_二牛窓_一泊_二室津_一。十里。晚小飲。再浴湯。「晴。午後微陰。夜雨。」

十八日 朝發_二室津_一風疾浪盪。未牌至_二赤石_一下_二錠_一。浴湯。拜_二人丸祠_一。自_二室津_一至_二赤石_一十三里。「晴。午後一陰一晴。夜雪寒甚。」

十九日 午後發_二赤石_一到_二兵庫_一。五里。晚浴湯。買_二魚飲_一酒。更携_二舟人_一飲_二街南某樓_一。「陰晴不定。時微雪。」

二十日 晨發_二兵庫_一。未牌到_二浪華_一。十里。宿_二新堀客店_一。以_二久在_一舟中體頗不快。浴湯按摩。夜舟子等來候_二安否_一。拉散_二步街上_一小飲。體稍快。「候同_二昨日_一。」

二十一日 午後訪_二油屋久萬_一小飲。更訪_二阿部良平_一藤沢東咳_二。東咳余舊知也。「陰。午後稍晴。」

二十二日 移_二寓油屋生宅_一。午後訪_二小竹翁_一不在。往_二天王寺_一觀_二樂舞_一。此日晴和遊_二人填街_一。寺前石華表有_二銅額_一曰釋迦_三如來轉法輪處當極樂東門中心。小野朝臣道風所書也。字形古樸不可_二悉認_一也。夜歸_二寓_一。浴湯飲酒。「晴。」

二十三日 午前再訪「小竹」閑話喫「午飯」示「舊稿數篇」。歸路過「話東咳」。又拜「天滿天神祠」。夜小飲。「陰」。晚晴。」

(二十三日から二十六日までの上欄外に) 小竹。齋藤町尾崎橋ノ西。縑洲。西横堀敷津橋東詰北角。東咳。淡路町渡邊筋東へ入ル南側。寛五。淡路町井池筋西へ入(ル)北側。

二十四日 舟子等來訪。拉拜「住吉神祠」。帰浴湯。「晴暖。」

二十五日 午後同「寓主人」遊「堀江」。藤東咳來報「會期」。以「余不在留」書而去。「晴。」

二十六日 午後訪「小竹縑洲」及「松本寛五」。晚訪「東咳縑洲」。亦携「酒肴」到。劇談及「半夜」。余終投宿。「晚。」

二十七日 朝辭「東咳」。東咳送到「岐路」。卒帰「寓」。小飲。「雨。」

二十八日 朝將「赴」澳府「雨未」休。乃止終日在「寓」。浴湯。小飲。「雨」。午後霽。」

二十九日 午前發「浪華」取「途於河州」拜「佐多天滿宮祠」又拜「男山八幡宮祠」。夜到「淀府」訪「姑氏」宿焉。浴湯小飲。凡自「浪華」到「伏水」及「淀府」挾「瀧水」而分「東西」。余所「由者東路經」撰河「一州」而入「城州」。八里。佐多祠傳云菅公食「邑于此」。有「公所」書屏風奉「祠之者」也。男山祠宇尤宏麗。「晴」。午後陰。」

三月朔 午後訪「府教授荒井半藏」。半藏阿波人往年為「淀侯所」聘招

「名」乎時。曾遊「我廣島」。余與「定交」雁魚不「絕者」。數年屢促「余上都」。於是往通謁即出迎大喜叙「久闊之情」。既而酒魚雜進且談且酌。半藏四男長学「中井氏」在「懷德堂」一為「兼葭堂所」養。第二子年十八幼者十歲及一門生皆來侍。及「夜主人懇命」宿。因約「明日更來」。辭帰「寓將」二更。「大雨。」

二日 余之將「發」浪華也。衣具及書籍納之一筐前二日託「寓主人」命「某客店」通「送」淀府上。而到「今日」猶未「達」。待「之終日」卒不「得」。訪「荒井氏」。「陰。」

三日 佳節。浪華之信尚杳然。姑及諸從姊妹皆慮「有」失勸「余再赴」浪華。午前自「淀城」買「舟」而西。申牌至「浪華」復寓「油生」議「按其事」。小飲浴湯。「陰晴不定。」

四日 午後遊「稻荷祠」飲帰。夜同「主人」及「某々等」到「西国橋下」之酒肆「啗」鯉魚汁炙鰻(縦線・省略記号)「大飲」。「陰晴不定」。夜「小雨。」

五日 將「還」淀府「雨不」克「還」。「雨。」

六日 淫淋不「止」終日在「寓」。無聊甚。小飲浴湯。「雨。」

七日 午前出「浪華」由「西路」而進。迂曲甚。拜「大山崎八幡祠」。此地為「往日戰場」。天王山宝寺皆在「其地」。夜漸入「淀府」。八里程。浴湯。「陰晴不定」。晴微雨。」

八日 午後訪「荒井氏」留飲。因宿焉。「晴。」

九日 在「荒氏」借「覽奇書」。午後飲且閑話。「雨。」

十日 將「辭入」京師。主人以為花期猶遲。懇留不止。午後偏視「所藏金石圖文拓本數十百紙」。多「奇品」。晚大飲。「雨。」

十一日 午飯畢。主人約「今夕」遊「……(三點・省略記号)」。乃還。姑氏束裝以將「明日入」京也。晚適「荒氏」小飲更過「養源寺」。寺主棠隱「次人」。款待更酌遂宿。「陰晴不定。」

十二日 朝自「養源寺」還「姑氏」。午飯。發「其家」入「京」。三里。夕到「書肆吉治」。又訪「詩禪」話口。借「館於」二条木屋街。夜小飲。「晴。」

十三日 朝訪「曾谷氏」得「家信」。因知「幼女死」。午飯同「氏」。又過「植村生」不在「家」。訪「摩島梅辻諸子」閑話。晚歸。悲傷未「除」。此節優甚。乃招「同寓奧田生」俱飲。生與人為「卷弘齋門下」善書及詩。「雨。」

十四日 朝訪「星巖」議「江府之事」閑話。歸發「家書」。午後到「長樂寺」花候猶早。歸與「星巖」訪「賴子成」飲「山紫水明榭」。豐後人中「鳴子玉筑」前人「德永子宝」在「座」。醉後「二家先去」。子成使「余論」文。每「言称」善。因曰子既得「八九分」。今姑說以「我所」得云々。其說亦可「聽」。所謂士不「虛有」名者於「子成」見之。最後與尚「論古今」。主客驩然。歸「寓則將」三更。「陰晴不定。」

十五日 朝訪「星巖」。午後過「訪北小路大學助」達「光藤氏所」託書。

拜「菅廟」更散「步東山」。「晴寒。」

十六日 朝訪「星巖」。午後同「星巖」到「東山碧雲樓猪飼翁壽筵」。會者百餘人。洛下名士皆集。通名相面數十人。酒饌豐備各「整」飲。及「夜與」星巖「先歸」。浴畢與「同寓」話。「陰晴不定。」

十七日 猪飼氏寿序腹稿成。午後同「後藤生」及某生「拜」清水寺大士。又過「長樂寺」看「花飲酒」。樓舞妓某來侍。夜始散。歸路宿「鴨水之西某樓」。半夜余獨先歸。「陰雨。」

十八日 「雨」

十九日 午後再赴「淀府」投「姑氏」。訪「鳴門」不在。乃過「養源寺」小飲宿焉。浴湯。「晴。」

二十日 朝過「話鳴門」。午前同「棠隱師」遊「伏水桃山」飲「酒肆」。因買「小舟」而還。宿「養源寺」浴湯。此日大醉遺「夾袋於路」。「晴。」

二十一日 歸「姑氏」。以「微恙」斷「酒」。「晴。」

二十二日 病稍快。午後往「鳴門家」觀「法書」。晚歸。「晴。」

二十三日 午後浴湯。過「鳴門」告「明日歸」京乞「附」書江戶諸子。話數刻酌「別杯」還。「晴。」

二十四日 朝過「鳴門」取「附書」。告「別養源寺」酌「別杯」。午後發「淀府」歸「京」。浴湯。夜同寓加州某生設「酒引諸」歌妓到余漸歸。

「晴。」

二十五日 與_二奧人奧田健吾及某々生_一到_二嵐山_一看_二花_一。花期方好。絕妙不_レ可_レ言狀。携_二行厨_一□杯。歸路過_二秦邑光輪寺_一。花亦好。余到_二三条橋_一與_二諸子_一別獨看_二花頂山門外花_一。賴山陽及同寓參河都築生同飲_二花下_一揖_二余上席_一。復飲_二一杯_一而辭。還浴湯。過_二訪詩禪_一話別。「晴。」

二十六日 午後被_二文稿_一訪_二山陽_一不在。屬_二稿內人_一。還後過_二華頂山_一小飲。「晴。」

二十七日 晚過_二後藤生_一小酌。歸後浴湯。「晴。」

二十八日 發_二家書_一。午後小酌。訪_二仁科梅辻_一不_レ遇。訪_二小森氏_一問_二池適齋之信_一。歸路過_二曾谷氏_一亦不_レ遇。「晴。」

二十九日 朝過_二東山_一遍觀_二花小_一飲_二南禪寺_一。午後再為_二諸子所_一携過_二東山某々氏_一。多_レ與不_レ可_レ言也。叱。「晴夜雨。」

三十日 午前小飲。午後從_二同奧田生_一過_二飲光玄院_一。夜歸。「雨。午前霽。」

閏三月朔 午後浴畢發熱。疝_一大動平臥乞_二奧田生藥_一。「陰晴不定。」

二日 終日臥蓐。「候_二同昨日_一。夜雨。」

三日 臥蓐。差似_二快_一。「雨。」

四日 在_二蓐_一。大覺_二苦憊_一。夜東本願寺聚材場火。「陰霽不定。」

五日 「晴。」

六日 「同。」

(六日から十二日までの上欄外に) 堺町御池下ル。□□。

四条高倉西へ入ル。摩島。

西堀川佛光寺下ル。植村。

柳馬場二条上ル。仁科。

東洞院端上ル。小森。

二条柳馬場西へ入ル。吉治。

七日 「同。」

八日 到_二今日_一猶未_レ快。憊益甚。乞_二京醫_一。岡田氏診服_二□某□劑_一。三和□□□□湯少覺_二快_一。終曾□□□□。「陰夜雨。」

九日 漸快。諸症俱減。得_二加藤小野二生書信_一。「雨。晚霽。」

十日 得_二町野氏書_一。病稍復。結髮。試散_二步近街_一。未_レ能_二健步_一。忽歸与_二同寓_一微飲。「晴。」

十一日 夜岡田氏來診。浴湯。「陰晴不定。」

十二日 晚與_二平山子_一小酌。「晴。」

十三日 朝適岡田氏乞薬。午後散步到黒谷。晚小飲。〔晴。〕

十四日 在葦。〔陰。午後雨。〕

十五日 適岡田氏乞薬。〔午前雨。霽。〕

十六日 太上皇幸修学寺⁽¹⁾。余晨起與同寓某力疾到糺河原⁽²⁾拜觀儀仗。午後遊誓願寺。〔陰晴不定。〕

十七日 午後遊東山⁽¹⁾拜清水寺大士觀蕃客。〔晴。〕

十八日 過岡田氏以疝稍快更乞痔疾薬。午後作家書。〔晴。〕

十九日 乞薬於岡氏。今日已後每灸背腰。〔同。〕

二十日 灸。午後遊誓願寺入射場。〔同。〕

二十一日 乞薬。灸。痔病頗快。午後與同寓棋賭酒。余勝之。〔陰。午後雨。〕

二十二日 灸。午後岡田氏至。煮泥鱸⁽¹⁾供酒。〔雨。〕

二十三日 灸。乞薬。午後遊紫雲山射場。〔陰。〕

二十四日 訪植村生。午飯。歸路過岡田氏謝病痊且告別。〔以微風邪休灸。陰晴不定。〕

二十五日 以余東行在近所齋書及衣具先送致東都。午後謁北野聖廟⁽¹⁾禱東行無恙。夜淀府前田生來宿。以下從余東遊之約也。〔晴。〕

二十六日 午後灸。前田生再有事赴淀府。〔晴。〕

二十七日 午後灸。明日將發而足痛未痊。復緩一日。浴湯。前田生歸。〔晴。〕

二十八日 灸。夜同寓餞余。〔晴。〕

二十九日 朝同前田生發京師。同寓及逆旅主人送到三條橋。午前到大津⁽¹⁾。午飯石場。自草津取途於左方。此為美濃路。宿守山⁽²⁾。八里。凡自發京到東都□□訪□跡□□別記。晴。〕

注

自「はじめに」至「讀我書樓長曆」(題)

(1) 荒木龍太郎・荒木見悟『吉村秋陽・東沢瀉』(叢書日本の思想家46、明德出版社、一九八二)

(2) 底本には題簽・外題・内題は無い。ただ、後年の冊子に「讀我書樓長曆」とあるので、ここでは論者の責任で仮に「讀我書樓長曆」と表記した。表紙には次の書き入れがある。

此冊日曆之始メニテ三十三歳江都遊学□
起 文政己丑九月ヨリ天保辛卯マデ 一卷(以上朱筆、以下墨筆)
行記丁未止之

此冊余三十三東遊及途中

留寓中之雜記 前後無

次 卷別論語議者其以□□

□□□也。記畢□□。

九月望

(1) 海田驛 西国街道の宿場。現在の広島県安芸郡。

(2) 四日市驛 西国街道の宿場。現在の東広島市西条町。

(3) 松子嶺 現在の東広島市高屋町に位置する松子山のことか。

(4) 三永村 現在の東広島市西条町上三永・下三永。

九月十六日

(1) 新莊村 広島県山県郡(現・北広島町)の新莊村のことか。

(2) 三原城 広島支藩三原藩淺野氏の居城。現在、城跡は山陽新幹線三原駅(広島県三原市)となっている。

(3) 湯淺氏 湯淺子亭(一七八一〜一八三八)、名は復、字は子亭、号は華崖。

三原藩儒。広島藩儒加藤定齋に入門し、朱子学(闇齋派)を修め、朝陽館(三原藩広島城内)で子弟の育成にあたる。秋陽は二十一歳の春より入門し、朝陽館の助教をつとめていた。

陽館の助教をつとめていた。

十九日

(1) 向嶋 向嶋のこと。現在の広島県尾道市に属する。

二十二日

(1) 僧風牀 積風牀、名は教存、号は風牀行人。備中の人。『統聯珠詩格』、『統聯珠詩格補遺』、『風牀詩稿』、『風牀隨筆』、『風牀小詩』を著す。

珠詩格補遺』、『風牀詩稿』、『風牀隨筆』、『風牀小詩』を著す。

(2) 觀龍 〓もと「寛龍」に作る。墨筆にて「觀龍」に訂正す。

二十五日

(1) 夢研良 龜山夢碩か。夢碩、名は士綱、字は紀卿、号は夢碩。備後の人。尾道の儒者。

二十七日

(1) 良悦 星野良悦(一五七四〜一八〇二)、名は寧、字は子康、号は柳子。良悦

は通称。安芸の人。蘭方医であった。

晦

(1) 浄土寺 現在の広島県尾道市久保町にある浄土寺(真言宗)のこと。

十月朔

(1) 弓削嶋 愛媛県北東部の弓削島のこと。

(2) 篷底 船底・船中を指す。

五日

(1) 蜀葵湯 蜀葵根とも。整腸・利尿作用のある漢方薬。

六日

(1) 愀種 炎症のこと。

(2) 腸癰 ちようよう。虫垂炎のこと。

七日

(1) 僦居 借家住まいのこと。

八日

(1) 皆川湛園(一七三八〜一八〇七)、名は愿、字は伯恭、号は湛園。折衷学。京都の人。

都の人。

(2) 中濱街 現在の愛媛県今治市中浜町か。

二十二日

(1) 現在の山口県岩国市にある曹洞宗寺院大応寺か。

二十四日

(1) 孟子三言 不詳。佐藤一斎『言志録』には、「讀書の法は當に孟子の三言を師とすべし。曰く、意を以て志を逆ふ、と。曰く、盡くは書を信ぜず、と。曰く、

人を知り世を論ず、と。(讀書法當師孟子三言。曰以意逆志。曰不盡信書。曰知

人論世。)(二二三九条、『佐藤一斎全集』第11卷一五一頁参照、明德出版社、一九九一)とある。

九九一)とある。

二十七日

(1) 心喪Ⅱ喪服を着ずに、心の中で喪に服すること。

二十九日

(1) 廳事Ⅱここでは藩の役所、藩庁のこと。

十一月六日

(1) 大濱八幡神祠Ⅱ現在の愛媛県今治市大浜町にある神社。

(2) 鬪村Ⅱ村じゅう。村全体。

八日

(1) 加藤珠文、名は淵、号は王香園、字は珠文。広島に人。詩文を秋陽に学ぶ。

(2) 伯氏Ⅱ秋陽の兄、和助。名は董。『吉村秋陽』(既出、明德出版社)一一頁参照。

十一日

(1) 媛房Ⅱ引つ越しの祝い。

十五日

(1) 灼艾Ⅱ灸を据える。

十六日

(1) 日吉村Ⅱ愛媛県越智郡にあった村。現在の今治市に位置する。

二十六日

(1) 國分寺Ⅱ現在の愛媛県今治市国分にある伊予国分寺。

(2) 脇屋義助(一三〇一〜一三四二)は、鎌倉から南北朝期に活躍した武将。新田

義貞の弟。伊予に渡り没す。

十二月七日

(1) 下酒Ⅱ酒の肴のこと。

十九日

(1) 撤帳Ⅱ塾を休みにすること。

文政十四年正月朔

(1) 履端Ⅱ塾暦のはじめ、元日。

二月朔

(1) 金匱釋義Ⅱ中国の医学書『金匱要略方論』(張仲景撰)についての注釈書か。

(2) 雌黄Ⅱ黄色の顔料。この雌黄を用いて詩文を添削した。ここでは「添削・批評」の意味で解釈した。

二日

(1) 波止濱Ⅱ現在の愛媛県越智郡に位置する。

十四日

(1) 登茂浦Ⅱ友浦(現在の愛媛県今治市宮窪町友浦)のことか。

十五日

(1) 鞆津Ⅱ鞆の浦(現在の広島県福山市鞆地区)のことか。

十六日

(1) 牛窓Ⅱ現在の岡山県瀬戸内市牛窓町。

十七日

(1) 室津Ⅱ塾現在の兵庫県淡路市に位置する。

十八日

(1) 赤石Ⅱ塾明石(現在の兵庫県明石市)のこと。

(2) 人丸祠Ⅱ柿本神社(兵庫県明石市人丸町)のこと。

二十一日

(1) 阿部良平、名は温、字は玉伯、号は縑州、良平は通称。大阪の篆刻家・詩人。

頼山陽の門人。讃岐の人。『良山堂茶話』を著す。

(2) 藤沢東咳(一七九四〜一八六四)、名は輔、字は元発、号は東咳。讃岐の人。

高松藩儒・大阪の儒者。古文辞学。一時山口西園に学ぶ。卒年に至るまで秋

陽と親しく交渉する。

二十二日

(1) 篠崎小竹(一七八一〜一八五二)、名は弼、字は承弼、号は小竹。豊後の人。

大阪の儒者。古文辞学から朱子学へ転向。篠崎三島の養嗣。

(2) 華表Ⅱ鳥居のこと。

(3) 銅字曰云々Ⅱ四天王寺にある鳥居(通称発心門)の扁額に「釋迦如来轉法輪處

當極樂土東門中心」とある。底本は「土」の一字を欠く。

二十三日

(1) 天満天神祠Ⅱ大阪天満宮(現在の大阪府大阪市北区天神橋)の別名。
(2) 斎藤町Ⅱ現在の大阪市西区江戸堀周辺のことか。

(3) 西横堀Ⅱ現在の大阪市中央区と西区の境界周辺に位置していたか。

(4) 井池筋Ⅱ塾現在の大阪市中央区を南北に走る井池筋。

二十四日

(1) 住吉神祠Ⅱ住吉大社(現在の大阪府住吉区)のこと。

二十八日

(1) 漢府Ⅱ淀城下のことを指す。漢とは淀川のこと。

二十九日

(1) 佐多天満宮祠Ⅱ佐天神宮(現在の大阪府守口市佐太中町)のこと。

(2) 男山八幡宮祠Ⅱ石清水八幡宮(現在の京都府八幡市)のこと。

三月朔

(1) 荒井半蔵(一七七五〜一八五三)、名は公廉、字は廉平、号は鳴門、半蔵は通

称。阿波の人。淀藩儒。朱子学者。那波魯堂・林述斎の門人。

(2) 兼葭堂Ⅱ木村兼葭堂のことか。名は孔恭、字は世肅。大阪の人。

七日

(1) 大山崎八幡祠Ⅱ離宮八幡宮(京都府乙訓郡大山崎町)のことか。

十一日

(1) 養源Ⅱ養源院(現在の京都府京都市東山区)のことか。

十二日

(1) 詩禪Ⅱ梁川詩禪(一七八九〜一八五八)、名は孟緯、字は公図、号は星巖・詩

禪・鴨浜小隠。美濃の人。『吉村秋陽』(既出、明德出版社)一六頁参照。

十三日

(1) 摩島Ⅱ猪飼敬所の門人摩島松南のことか。

(2) 梅辻Ⅱ村瀬考亭の門人梅辻春樵(兄)、あるいは梅辻星舩(弟)のことか。

(3) 巻弘齋、名は大任、字は致遠、号は弘齋。江戸の書家・誌人。

十四日

(1) 頼子成(二七八〇〜一八三三)、名は襄、号は山陽、字は子成。

(2) 中嶋子玉Ⅱ中嶋子玉(一八〇一〜一八三四)、名は大賚、号は米華、字は子玉。

豊後の人。佐伯藩儒。朱子学者。広瀬淡窓・古賀侗庵の門人。

十五日

(1) 北大路大学助Ⅱ北小路竹窓(一七六三〜一八四四)のことか。名は寵、字は天

爵。京都の人。大炊介・大学助を歴任する。

十六日

(1) 猪飼翁Ⅱ猪飼敬所(一七六一〜一八四五)、名は彦博、字は希文、号は敬所。

近江の人。津藩儒。古義折衷学。

十七日

(1) 長樂期寺Ⅱ現在の京都府京都市東山区にある時宗寺院か。

二十五日

(1) 秦邑光輪寺Ⅱ法輪寺(現在の京都府京都市西京区)のことか。

(2) 華頂山門Ⅱ知恩院(京都府京都市東山区)のことか。華頂山は山号。

二十九日

(1) 南禅寺Ⅱ京都府京都市左京区にある臨濟宗寺院。

閏三月朔

(1) 疝疔Ⅱ疝気、疝病。下腹部痛のこと。

十六日

(1) 修学寺Ⅱ修学院離宮(京都府京都市左京区修学院)のことか。

(2) 誓願時Ⅱ京都府京都市中京区新京極通りの浄土宗寺院。

〔附記〕

本稿は荒木英子氏の協力を頂いた。厚くお礼申し上げます。
本稿を成すにあたって撮影・翻刻の許可を頂いた九州大学附属図書館

に感謝いたします。

(二〇二二年五月五日 改稿)